

中堅・若手の考える これからの土木

How will be our future?
Mid-career and young generations think about the future of civil engineering

特集担当主査：野口恭平

特集企画担当：天沼稚香子、大前慶恵、岡本枝里、栗原太郎、峪龍一、中島健輔

土木を取り巻く環境の変化

2050年を見据えた「国土の長期展望」における課題として、人口減少・少子高齢化、気候変動と自然災害の激甚化・頻発化、国際環境の変化などが挙げられている⁽¹⁾。いずれも土木との関わりが深い。土木分野として、そこで生きる技術者・研究者として、どのように課題を受け止め、立ち向かうのか、よく考える必要がある。特に大事なものは、その主体が誰か、という点ではなからうか。

中堅・若手は もっと目立つべき

50代や60代のベテラン世代が土木に対して多大な貢献をしてきたこと、そして現在も第一線で活躍していることは論をまたない。ベテランの力はこれからも不可欠である。しかし、土木を取り巻く諸課題に対して中長期的に向き合う必要性を考慮すると、20～40代の中堅や若手と呼ばれる世代^(注)こそ、一段と主体的に取り組むべきではなからうか。

図1は2009年と2023年の

ABSTRACT

Civil engineers face societal changes, such as declining and aging population, climate change, and increasing severe disasters. Shortly, we, a smaller number than previous generations, will tackle these changes. This feature explores the thoughts of young and mid-career professionals who will become leaders in the future of civil engineering, covering topics such as the significance of young professionals and necessary research. We hope that both veterans and younger generations reflect on their perspectives on the future of civil engineering.

3月末における、土木学会会員の年齢・性別構成を示す。14年の間にその構成は大きく変わった。便宜上50歳以上とそれ未満で区別すると、2023年では50歳以上が全体の約半数を占めており、人数の面でも50歳以上が中心的な役割を果たしていることが分かる。一方、20代や30代は2009年から減少し、2023年では50代の半分程度の年齢層もある。迫りくる諸課題にこのような状況で立ち向かうためには、これからの時代の中心となって活躍すべき中堅や若手が、主体的に考え、ベテランにも負けぬ活躍を見せる必要がある。しかし、中堅や若手はどうしてもベテランの陰に隠れがちである。

そんな中堅や若手の考えを、皆さんはどれ程知っているだろうか。

冒頭に例示した2050年問題を含め、土木分野の諸課題に持続的に取り組むためには、20〜40代の中堅・若手が、現状や将来についてどう考えているのかを明らかにすることが重要と考えられる。なお、課題ばかり言及してきたが、図1からはすべての年齢層で女性の比率が増えているなど、好ましい変化も見られる。現実を直視し、課題を認めつつも、前向きに進んでいきたい。

本特集の構成

本特集では「中堅・若手の考えるこれからの土木」をテーマとした。これからの土木の在り方について、近い将来にその主体となる中堅・若手の考えを発信する場としたい。著者や鼎談の登壇者には、業界や組織を代表するのではなく、個人の思いを等身大で語るようにお願いした。初めに、これからの土木に求められることをテーマに二つの記事を用意した。一つ目は、若手の会の意味や意義に関するもので、若い世代が中心となって将来を考える必要性を述べてもらった。もう1件は学術的な立場から、土木の変革に必要な研究や技術開発を取り上げている。

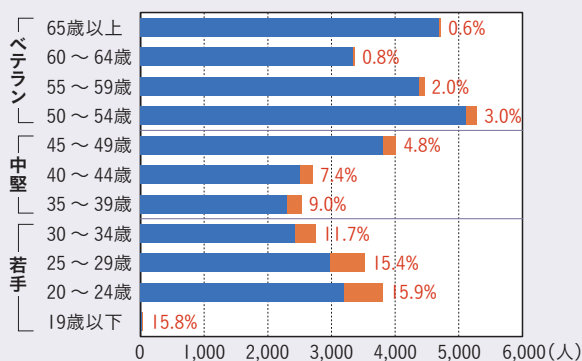
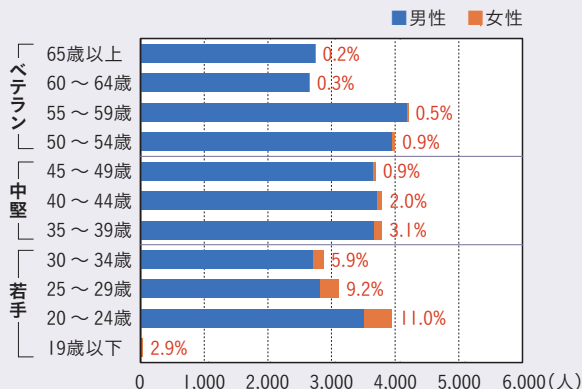


図1 土木学会個人会員・学生会員の年齢・性別構成 (上: 2009年3月末、下: 2023年3月末。図中の数値は世代ごとの女性の比率)

次に、産官学の1名ずつに、自身が現在取り組んでいることを軸に、これからの時代に対して持つ問題意識や必要な技術、自身のビジョンを、率直に述べてもらった。

将来を語るには人材育成やキャリアアップの話題は欠かせないので、土木業界との関係や性別、年代の違いなど、さまざまな属性を持つ登壇者による鼎談を実施した。また、他業界から土木の会社に転職した方に、土木の特徴や魅力を独自の目線で語ってもらった。さらに、土木学会の若手グループは、幅広い年代を対象とする未来志向のアウトリーチを紹介してくれた。

締めくくりに鼎談として、学生を含む特に若い世代から見た土木分野の課題や、将来の思いを描くキャリアについて、大いに語ってもらった。

いずれの記事も組織の取り組みや方針、考え方を紹介しつつ、個人的な思いも盛り込まれ、大変読み応えのある内容に仕上がった。課題にとどまらず、中堅や若手が思う土木の魅力も紹介されており、課題を直視しつつも明るい記事となった。

あなたが考える これからの土木は？

この特集を通じて、ベテランの方々には、若い研究者や技術者が持つ熱い思いの一端を知ってもらいたい。中堅・若手の方々には、自分たちと同世代にはこんな考え方の人がいて、それを臆せず発信してもよいのだ、といったメッセージが伝わることを期待する。本特集で執筆や登壇を行った方には、数十年を経て改めて本特集を見返したときに、当時の自分のビジョンが未来においてどのような形となっているのか、タイムカプセルのような思いを感じてもらえると望外の喜びである。

最後に、ぜひあなた自身でこれからの土木について考えてみてほしい。

(注1) ここではおよその区分として、若手を20〜30代前半、中堅を30代後半〜40代、ベテランを50代以上とみなしている。ただし、このような分類は業種や組織の違い、個人の経歴に加えて、書き手の裁量によるところが大きい。あくまで便宜上の区分としてご了承ください。

参考文献

(1) 国土審議会計画推進部門「国土の長期展望専門委員会」『国土の長期展望』中間とりまとめ参考資料、2020年